

基本計画



施策分野の体系表

I みんなが活躍し、個性輝くまち

1 保育・幼児教育

2 学校教育

3 子育て・子育て

4 生涯学習・社会教育

5 科学・文化芸術

6 スポーツ

II みんなが健やかに、 支え合って暮らせるまち

7 健康・医療

8 地域福祉

9 高齢福祉

10 障がい福祉

11 市民協働

12 人権

III みんなが安全に、 快適な環境で生活できるまち

13 防災

14 防犯

15 交通

16 道路・橋梁・河川

17 住環境・建築

18 地球環境

19 生活環境

20 上下水道

IV みんなが活力と魅力を生み、 賑わいあふれるまち

21 公園・緑地

22 まちづくり・景観

23 歴史・文化財

24 観光・交流

25 商工業・しごと

26 農業

V 市民とともに「かしはら」をつくる 信頼の行政運営

27 行政運営

基本計画の見かた

取組を通じて実現を目指す姿を記載しています。

取組みの成果を測る指標を示しています。なお、市民アンケートにより実績値を把握し、示しています。

基本計画 I みんなが活躍し、個性輝くまち

1 保育・幼児教育

関連する SDGs

目指す姿

子どもが自分の個性や能力を伸ばし、夢と希望を描いています。

現状・課題

- 就労形態の多様化や共働き世帯の増加などに伴い、保育所への入所希望者は年々増えており、独自でこども園や園を開設するなど受け皿確保に努めているものの、待機児童の解消には至っていません。保育・幼児教育にかかる資源を最大限活用しながら、多様な保育ニーズに柔軟に対応できる体制の構築が求められます。
- 生活習慣や社会性、豊かな感性を育む生活体験は子どもにとってとても重要な体験ですが、共働き世帯の増加や家庭の小世帯化により、その機会が減少しています。それを補う上で、保育・幼児教育の重要性は増しており、子どもの豊かな成長のため、さまざまな生活体験を提供していく必要があります。
- すべての市立幼稚園の耐震化が完了しましたが、築40年を経過した施設が多くあり、老朽化が進んでいます。子どもが安全に生活できるよう、計画的な施設設備の保守管理が求められます。また、変化する生活様式に対応した、幼児期にふさわしい生活環境を整える必要があります。
- 適正な集団規模を確保することは、義務教育及びその後の教育の基礎を培う幼児教育にとって大変重要なことですが、本市の市立幼稚園の総園児数はピーク時から8割減少し、園児数の減少傾向は著しい状況です。今後さらに小規模化が進むと見込まれることから、再配置を含めた、幼稚園規模の適正化を図ることが求められます。

歴外保育

成果を測る指標

幼少期の子ども笑顔が輝き、のびのびと育っていると感じる市民の割合
実績値：42.6%

取組み例

体制

- 私立保育園と連携し、受入れ体制の整備を図ります
- ★保育士・幼稚園教諭の確保と保育士・幼稚園教諭の処遇改善を図ります
- 幼稚園・保育所・認定こども園などが相互に情報共有・連携をします
- 保育・教育施設と小学校・中学校との連携を推進します
- 柔軟な保育・教育ができる体制の形成をします
- 障がい児加配講師・保育士を確保して配置します

内容

- 保育サービスについての詳細な情報を提供します
- 外部専門家・地域交流などによる魅力的で豊かな人間性を育む体験を提供します
- 多様な就労形態や保護者ニーズに対応するための保育を実施します

施設

- 「就学前の幼稚園」
- 計画的

個別計画

- ▶ 檀原市食育推進計画
- ▶ 檀原市子ども・子育て支援事業計画
- ▶ 檀原市就学前保育・教育指針
- ▶ 檀原市就学前人権保育・教育指針
- ▶ 就学前の保育・教育のあり方と適正配置についての基本計画
- ▶ 檀原市学校施設整備基本計画
- ▶ 檀原市教育施設再配置基本方針
- ▶ 檀原市発達障がい者支援推進プログラム
- ▶ 檀原市教育大綱

26 檀原市第4次総合計画 檀原市第4次総合計画 27

当該施策分野に関わる現状と課題を記載しています。

カテゴリごとの取組みを例示しています。★印は戦略的要素を含む取組み例

関係する分野別計画を記載しています。

当該施策分野に関連するSDGsを記載しています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



1 保育・幼児教育

目指す姿

子どもが自分の個性や能力を伸ばし、夢と希望を描いています。

現状・課題

- 就労形態の多様化や共働き世帯の増加などに伴い、保育所への入所希望者は年々増えており、独自でこども園*5園を開設するなど受け皿確保に努めているものの、待機児童*の解消には至っていません。保育・幼児教育にかかる資源を最大限活用しながら、多様な保育ニーズに柔軟に対応できる体制の構築が求められます。
- 生活習慣や社会性、豊かな感性を育む生活体験は子どもにとってとても重要な体験ですが、共働き世帯の増加や家庭の小世帯化により、その機会が減少しています。それを補う上で、保育・幼児教育の重要性は増しており、子どもの豊かな成長のため、さまざまな生活体験を提供していく必要があります。
- すべての市立幼稚園の耐震化が完了しましたが、築40年を経過した施設が多くあり、老朽化が進んでいます。子どもが安全に生活できるよう、計画的な施設設備の保守管理が求められます。また、変化する生活様式に対応した、幼児期にふさわしい生活環境を整える必要があります。
- 適正な集団規模を確保することは、義務教育及びその後の教育の基礎を培う幼児教育にとって大変重要なことですが、本市の市立幼稚園の総園児数はピーク時から8割減少し、園児数の減少傾向は著しい状況です。今後もさらに小規模化が進むと見込まれることから、再配置を含めた、幼稚園規模の適正化を図ることが求められます。



屋外保育

関連する
SDGs



成果を測る指標

幼少期の子ども笑顔が輝き、のびのびと育っていると感じる市民の割合

実績値：42.6%

取組み例

体制

- 私立保育園と連携し、受入れ体制の整備を図ります
- ★ 保育士・幼稚園教諭の確保と保育士・幼稚園教諭の処遇改善を図ります
- 幼稚園・保育所・認定こども園などが相互に情報共有・連携をします
- 保育・教育施設と小学校・中学校との連携を推進します
- 柔軟な保育・教育ができる人材を育成します
- 障がい児加配*講師・保育士を継続して配置します

内容

- 保育サービスについての詳細な情報を提供します
- 外部専門家・地域交流などによる魅力的で豊かな人間性を育む体験を提供します
- 多様な就労形態や保護者ニーズに対応するための保育を実施します

施設

- 「就学前の保育・教育のあり方と適正配置についての基本方針」に基づき実施計画を策定し、保育所・幼稚園の再編に取り組みます
- 計画的に機器・教材・施設などを整備するとともに、ICT*化を図ります

個別計画

- | | |
|-------------------------------|----------------------|
| ▶ 榎原市食育推進計画 | ▶ 榎原市学校施設整備基本計画 |
| ▶ 榎原市子ども・子育て支援事業計画 | ▶ 榎原市教育施設再配置基本方針 |
| ▶ 榎原市就学前保育・教育指針 | ▶ 榎原市発達障がい者支援推進プログラム |
| ▶ 榎原市就学前人権保育・教育指針 | ▶ 榎原市教育大綱 |
| ▶ 就学前の保育・教育のあり方と適正配置についての基本方針 | |

2 学校教育

目指す姿

子どもが確かな学力、豊かな人間性、たくましい心身を
バランス良く身につけています。

現状・課題

- 変化の激しいこれからの社会を生きるためには、確かな学力、豊かな心、健やかな体をバランス良く身につけることが大切です。学校教育においては、基本的な知識・技能を基礎としつつ、課題を解決する応用力や、他者を思いやり、自然や規律、命を大切にする心を身につける教育が求められます。また、心身の健康の増進による、健やかな身体の成長を促す必要があります。
- 学校は子どもが学ぶ楽しさや喜びを実感できる場です。学校を安心して学べる場所とするため、学校・家庭・地域・関係機関・行政などの連携により、いじめや不登校の未然防止・早期解決を図る必要があります。
- 子どもの成長期において、栄養バランスの取れた豊かな食事をとることは、心身の健全な発達に不可欠な要素です。また、食を通じて地域を理解することや、食文化の承継を図ること、自然の恵みや勤労の大切さなどを理解することも重要です。子どもたちが食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身につけることができるよう、学校給食を活きた教材として活用しながら、食育*を推進していくことが求められます。
- 特別な支援を必要とする児童生徒に、一人ひとりの特性に応じたきめ細かな教育を行うと同時に、すべての児童生徒が分け隔てなく、共に学ぶインクルーシブ*な教育環境を構築することが求められます。特に、学級全体に対する指導や特別支援学級での指導には専門的な指導力が必要とされるため、人的環境の整備に取り組む必要があります。
- 子どもと家庭・地域との関わりのなかで学校の役割が拡大しており、また教育の質向上のためのICT*や日々の教育課題への対応も求められることに伴って、教職員の負担増加が社会問題となっています。教職員の負担を軽減し、教職員が本来持つ意欲と能力を最大限発揮できる環境を整え、ひいては子どもの教育に良い影響として還元される仕組みを構築することが求められます。
- すべての市立小中学校の耐震化が完了しましたが、築40年を超えている学校施設がほとんどであり、施設の老朽化が進んでいます。児童生徒が安心して学校生活を送れるよう、計画的な施設設備の営繕・保守管理が求められます。同時に、各学校の特色や変化する教育課題に対応した良好な教育環境を整える必要があります。
- 適正な学校規模を確保することは、児童生徒の良好な教育環境の維持や教職員の指導体制の充実、学校の円滑な運営にとって大変重要なことですが、本市の児童生徒数は1980年代のピークから現在は半数以下まで減少しており、学校の小規模化が進んでいます。今後もさらなる小規模化が進むと見込まれることから、義務教育機会の均等や水準の維持向上の観点で踏まえ、再配置を含めた学校規模の適正化が求められます。

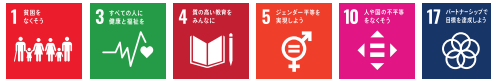


ICT教育



体験学習

関連する
SDGs



成果を測る指標

市内の小中学生が活発だと感じる市民の割合

実績値：36.9%

取組み例

体制

- 一人ひとりの子どもの個性を尊重しつつ、生涯学習の基礎基本の習得を促す教育環境を保ちます
- 不登校傾向児童生徒の居場所をつくります
- 教育・保育施設と小学校・中学校との連携を推進します
- ★スクールカウンセラー*やスクールライフサポーター*、専門家などと連携し、いじめや不登校の組織的な解決を図ります
- 児童生徒のネットリテラシー*を高める取組みを推進し、保護者にその取組みに対する理解を求めます
- ★発達に心配のある子どもへの支援に携わるさまざまな専門職のスキルアップと連携を図ります
- ★教職員の特別支援教育*にかかる専門性の向上に取り組みます
- 子どもや保護者が気軽に相談できる体制を整備します
- 特別な支援の必要があってもなくても、子どもが分け隔てられることなく過ごせる学校環境を整備します

内容

- ★ICT*・グローバル化*に対応した教育を推進します
- ★外部専門家を活用した授業を実施します
- 教育にかかる費用の保護者負担を軽減します
- 安全・安心な給食を提供するとともに、食育を推進します
- ★地域と連携して、それぞれの事情に応じた特色ある学校づくりを進めます
- 保護者との連携により、家庭学習を充実させます
- ★命の尊さを理解し、思いやりの心をはぐくむ道德教育・体験的学習を実施します
- 子どもの体力・運動能力の向上のため、学校体育を充実させます
- 創造性や感受性を育成するため、読書活動を推進します
- ★檜原で学び育ったことを誇らしく感じられるような郷土愛を育む教育を推進します

施設

- 計画的に学校施設を整備します
- 合理的な配慮に基づく学習環境を整備します
- 学校職場の改善のため、ICT化を図ります
- ★保護者や地域、関係機関と連携した通学路の安全確保を図ります
- 給食施設・設備を計画的に修繕するとともに、運営方法を検討します
- 檜原市教育施設再配置基本方針に基づき実施計画を策定し、教育施設の再編に取り組みます

個別計画

- ▶ 檜原市食育推進計画
- ▶ 檜原市教育施設再配置基本方針
- ▶ 檜原市発達障がい者支援推進プログラム
- ▶ 檜原市学校施設整備基本計画
- ▶ 檜原市いじめ防止基本方針
- ▶ 檜原市教育大綱

3 子育て・子育て

目指す姿

子育て世代が安心して出産や子育てをすることができ、
いきいきと輝いています。

現状・課題

- 市民アンケートにおいて「多くの人が2人以上の子どもを持つことを希望しているものの、経済的負担や仕事の事情、心身の健康問題などさまざまな理由から希望する人数の子どもを持っていない」といった状況がみられます。安心して妊娠・出産・育児ができる環境を整えていく必要があります。
- 在宅での子育てに不安や孤独感を持つ方は少なくありません。特に、ひとり親家庭や周りに頼る人のいない家庭については、ファミリー・サポート・センター事業*をはじめとした地域での支え合いによる切れ目のない支援が必要です。
- 本市における児童虐待に関する相談件数は年々増加しており、さらに子どもや家庭をめぐる問題は複雑化・多様化しています。より専門的な相談対応や必要な調査、訪問などによる継続的なソーシャルワーク*を中心とした機能を担う拠点を設置し、支援の一体性・連続性を確保する必要があります。
- 保護者の就労形態の多様化による保育ニーズの高まりは、そのまま小学校における放課後児童クラブ*へのニーズへとつながります。また逆に出産を機に仕事を辞め、小学校入学を機に再び働きたいと思う人も多く、今後、放課後児童クラブへの需要がますます高まることが予想されます。このため、施設整備を含む受入れ人数の拡大と安全性の確保、事業内容の充実及び指導員確保のための処遇改善が求められます。
- 発達支援を必要とする子どもは、日常生活における困難さや不安が周囲から理解されにくいということがあります。発達支援を必要とする子どもを早期から適切な支援につなぐことで、成長を促すことができます。また、障がいの受容や特性理解を促すことで、本人や家族の不安を解消することができます。子ども総合支援センターでは、啓発活動や子ども一人ひとりに応じた相談や療育などを行っており、今後も子どもが確実に支援を受けられ、本人や家族が抱える不安や困難さが解消されるよう、支援体制づくりが求められます。



幼児療育教室

関連する
SDGs



成果を測る指標

出産・子育ての悩みや不安を相談できる環境があると感じる市民の割合

実績値：30.2%

取組み例

母子保健・支援

- ★妊産婦とその家族の継続した状況把握を行い、情報提供、相談対応、支援を行います
- ★乳幼児期の発達・発育を継続的に把握し、育児支援を行います
- ★子育て世代包括支援センターを中心に関係機関、団体などとの連携により、切れ目のない支援を行います
- ★不妊治療*・不育治療*を希望する夫婦に対し、支援を行います
- 法令に基づく各種の給付などにより子育て家庭を支援します

子育て支援

- ★子育て中の女性のリフレッシュ支援に取り組みます
- ★子育て世帯の相互交流を促進します
- ★子育てサークルへ保育士を派遣するなどの支援を行います
- ★子どもの発達段階に応じた家庭教育に関する学習機会を提供します

家庭相談

- ★子ども家庭総合支援拠点を設置します
- 児童虐待対応の専門性を有する相談員を配置します
- 関係機関、団体などとの連携により、児童虐待の早期発見・早期対応を図ります
- 母子・父子自立支援員による相談・指導を行うとともに、就業に向けた能力開発の支援を行います

放課後児童

- ★新・放課後子ども総合プランに基づき、放課後児童クラブ施設を整備します
- ★放課後児童クラブ運営協議会へ支援を行います
- 処遇改善による指導員確保に努め、放課後児童クラブの活動内容を充実させます

発達相談・療育

- ★支援が必要な子どもに関する啓発や総合的な相談を行います
- ★支援が必要な子どもに関する相談や療育を早期から受けられる体制をつくります
- ★一人ひとりにあった療育を実施します

個別計画

- ▶ 榎原市食育推進計画
- ▶ 榎原市発達障がい者支援推進プログラム
- ▶ 母子保健計画（榎原市子ども・子育て支援事業計画に包含）
- ▶ 榎原市教育大綱
- ▶ 榎原市子ども・子育て支援事業計画

4 生涯学習・社会教育

目指す姿

市民がいつでもどこでも学びたいことを学ぶことができ、
学習の成果を活かしながら生きがいのある人生を過ごしています。

現状・課題

- 心の豊かさや生きがいのための学習需要が増大するとともに、ライフスタイルの多様化により、個人の興味や知的好奇心の多様化が進んでいます。本市では、時代のトレンド*を踏まえ、市民向けの社会教育講座や講演会を開催し、市民の積極的な参加を促しています。今後も社会変化に対応し、継続した市民の生涯学習支援を行っていくことが求められます。
- 中央公民館・地区公民館、地域学級や子ども教室は、地域における生涯学習・社会教育の拠点として重要な役割を持っています。学んだことを社会に活かすことは知識の好循環を生むと同時に、学習の成果が適切に評価されることで自己実現につながり、さらなる学習意欲の向上が期待されることから、これらを活用した、学びの成果を社会に還元できる仕組みづくりが求められます。
- 青少年は、次代の社会の担い手であり、その健やかな成長は将来の檀原市の発展の基礎となるものです。本市では、青少年センターや檀原市青少年指導委員と連携し、街頭指導や見守り活動を実施しており、青少年の犯罪件数は減少傾向にあります。健全な規範意識を持ち、自律的に行動できる大人に成長できるよう、引き続き社会全体での青少年育成が求められます。



絵の本の広場



檀原市地域生涯学習推進研修会

関連する
SDGs



成果を測る指標

生涯学習に取り組んでいる市民の割合

実績値：25.9%

取組み例

生涯学習

- 市民ニーズやトレンドに応じた生涯学習の機会を提供します
- 生涯学習に関する情報を効果的に提供します
- 歴史や文化などの地域資源を活用し、市民の本市への愛着が深まるような学習の機会を提供します
- 学習の成果を発表する機会や学習の成果を地域づくりに活かせる機会を創出します
- 市民・ボランティアとの協働と学習グループなどの活動を支援します
- 市民講座は、市民が市政に参画し、地域課題の解決に取り組む意欲を持てる内容となるよう充実を図ります
- 高等教育機関が有する知的資源や社会教育施設の有効活用に取り組みます

公民館

- 中央公民館の維持管理を適切に行います
- 地域特性や実情に応じたきめ細かな公民館の運営を図ります
- 老朽化した地区公民館は、計画的に改修整備を進めます
- 公民館における活動を通じ、地域課題に向き合う人材の育成や団体相互の連携を進めます

青少年

- 新成人の声を積極的に取り入れた成人式を開催します
- 地域の青少年見回り活動を実施します
- ★ 地域子ども教室を開催します
- 地域における青少年育成の指導者やボランティアの人材発掘、育成を行います
- 子どもの居場所づくりと、協調性やコミュニケーション力を高める体験活動を行います
- ★ 青少年健全育成について、家庭・地域・学校・関係機関と連携した啓発活動を推進します
- 青少年健全育成関係団体の活動を支援します

個別計画

- ▶ 橿原市子ども読書活動推進計画
- ▶ 橿原市中央公民館再配置計画

- ▶ 橿原市教育大綱

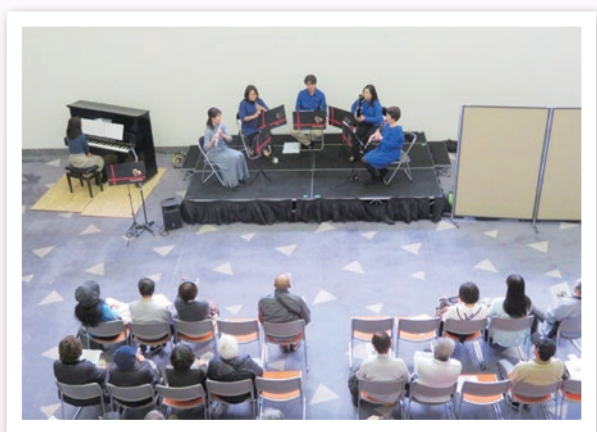
5 科学・文化芸術

目指す姿

科学や文化芸術に親しむ機会が多くあり、
市民が豊かな知性と心を育んでいます。

現状・課題

- 文化芸術は、楽しさや感動、精神的な安らぎをもたらし、人生を豊かにするとともに、豊かな人間性を涵養し、創造力と感性を育みます。市民一人ひとりが文化に親しみ、心の豊かさを実感できるよう、文化芸術に触れる機会や発表の場を充実させることが求められます。また施設の老朽化に伴い、安全な施設管理が必要です。
- こども科学館は奈良県唯一の科学館であり、科学に対する関心や興味を喚起し、遊びながら科学を体験できる施設です。累計入場者数は100万人を超え、子ども向け科学館としては国内でも有数の施設であり、飽きさせない魅力的な運営が必要です。
- 図書館には図書、記録その他必要な資料を収集・整理・保存し、人々に提供する役割があります。「中南和の知の拠点」として、豊かな知性と心を育むため、図書に触れる機会の創出が必要です。
- 昆虫館は奈良県唯一の自然史系登録博物館であり、昆虫を中心とした生物や自然、環境に関する情報を提供しています。生態展示を組み入れた博物館としての機能を維持・向上させつつ、魅力的な情報提供と利用者の利便性向上、また効率的な運営と安全な施設管理に努める必要があります。



ロビーコンサート



オオゴマダラ（昆虫館）

関連する
SDGs



成果を測る指標

科学・文化芸術に親しんでいる市民の割合

実績値：26.4%

取組み例

文化芸術・文化ホール

- 文化芸術の創造を担うリーダーや若い世代の育成を行います
- 多彩な文化芸術の鑑賞機会を創出します
- 市民の学び・創作・発表の場及び機会を創出します
- 効果的な情報発信を行います
- 市民の手による文化イベントの開催を支援します
- 施設の修繕・更新をし、長寿命化を推進します

科学館

- 展示物などを通じて、科学と接する機会を充実させます
- 科学実験や参加型イベントなど、子どもから大人まで楽しく学べるプログラムを実施します

図書館

- 所蔵図書維持管理・更新の適正化を計画的に推進します
- 読書活動を推進します
- 図書館の利用を促進します
- 中南和の「知の拠点」としての図書館運営を行います
- 図書資料の検索性を向上させます
- デジタル情報の拡充など、時代に応じた資料提供に努めます
- 市民ニーズや地域課題に応じたコーナー設置を図ります

昆虫館

- ★魅力ある自然観察会やイベント・企画展示、自然環境に関する講座を開催します
- ★昆虫などの資料を収集・保管・整理し、活用します
- 調査研究活動を推進し、成果を公表します
- 自然に関する学校教育支援を推進します
- 森林や河川などの野生生物の生息環境の保全を図ります
- 計画的に昆虫館施設の修繕・更新をし、長寿命化を推進します

個別計画

- ▶ 橿原市教育大綱

6 スポーツ

目指す姿

市民がさまざまなかたちでスポーツに親しみ、
健康で豊かに暮らしています。

現状・課題

- 運動・スポーツへのさまざまな関わりのなかで、自分自身が「する」ことは、健康・体力を維持・増進する上で極めて重要な要素です。誰もが、それぞれの希望するレベル・強度・内容で運動・スポーツを「する」ことのできる環境づくりが求められます。
- スポーツを「応援する」ことは、多くの人に夢と感動を与え、生活にゆとりと彩りをもたらします。特に競技場や体育館などで実際に試合をみて体験することは、臨場感や一体感から感動がさらに深まり、スポーツに対する関心や参加意欲の向上につながります。こうした体験は子どもの頃から豊富にすることが重要であり、身近にスポーツをみて応援できる機会を数多く提供していくことが必要です。
- スポーツをしたり、応援したりする人が増える一方、「支える」人の割合は決して多くありません。スポーツの振興には大会の運営や競技者の指導など、支える人の協力が不可欠です。「する」「応援する」だけでなく、スポーツを支えることで、スポーツをより身近に感じ、やりがいや生きがい、人とのつながりを実感することができます。「支える」ことの楽しさを伝えるとともに、スポーツを支える活動に参加しやすい環境を整える必要があります。
- 日常的に運動・スポーツを続けるためには、気軽に運動・スポーツに親しめる場所の確保が欠かせません。スポーツ施設については、既存施設の効果的・効率的な運営を促進するとともに、利用者が安全に運動・スポーツを楽しめるよう、適切な維持管理を行う必要があります。



スポーツクライミング



檀原運動公園

関連する
SDGs



成果を測る指標

日常的にスポーツに親しんでいる市民の割合

実績値：39.2%

取組み例

する

- ★市民参加型スポーツイベントを開催します
- ★スポーツ活動を支援します
- ★スポーツ団体を育成・支援します
- ★多様な広報媒体を活用し、スポーツイベントに関する積極的な情報発信を進めます
- ★本市の立地やスポーツ環境などを活かしたスポーツの普及に取り組みます
- ★学校体育施設を開放し、市民のスポーツ活動を推進します
- ★トッププレイヤーなどと子ども・一般競技者などの交流の機会づくりを推進します

支える

- ★地域で活躍するスポーツ推進委員や指導者などの人材育成・確保に努めます
- ★スポーツボランティアの育成・確保に努めます
- ★総合型地域スポーツクラブ（総合型クラブ）の活動を支援します

応援する

- ★スポーツを楽しむ機会の充実に取り組みます
- ★スポーツ大会の誘致に取り組みます
- ★企業スポーツクラブや民間事業者と地域団体などの交流を促進します

スポーツ施設

- ★予防・保守保全により、安全安心な施設を維持します
- ★スポーツ施設の積極的かつ有効な活用を図り利用を促進します
- ★施設を利用した健康づくりプログラムを提供します
- ★施設を利用した学習・交流の場を提供します
- ★民間活力も積極的に導入し、効果的・効率的な管理運営を行います
- ★民間活力の導入など、管理運営手法について研究を進めます

個別計画

▶ 橿原市スポーツ推進計画

▶ 橿原市教育大綱